

なんろくしょう し き 南六小の四季

12月

なんろくしょう ふゆ さむ
南六小にも冬がやってきました。寒くなると、どのような
へんか お まわ ようす み
変化が起きるのか、学校の周りの様子を見てみましょう。

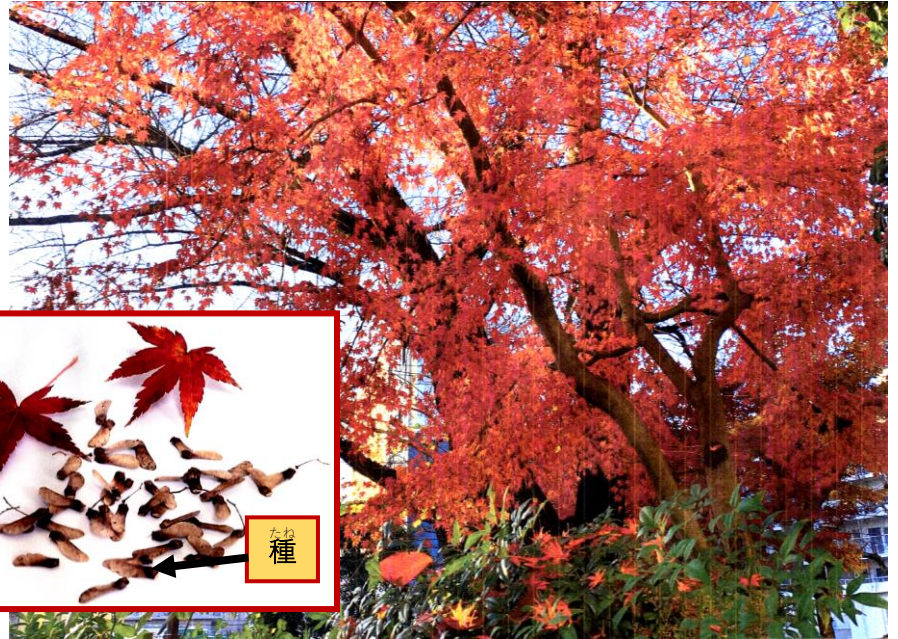
12月は、昔の日本の呼び方で、師走(しわす)といいます。

紅葉(こうよう)

学校の正門前のカエデの葉が赤く(紅葉)になりました。なぜでしょうか。

寒くなると、葉は栄養をつくれなくなるので、木は葉を落とす準備を始めます。葉の中にあるアントシアニンが増えて葉は赤くなります。

よく見ると、紅葉した葉の横には、種もありますよ。是非さがしてみましょ。



霜(しも)

冷やされた地面の近くの空気に含まれていた水が、地面や草などの表面について固まった氷の結晶のこと。



霜 しも
地はうつくしい気持ち
はりきって耐らえていた
その気持ちを草にも花にも
吐けなかった
とうとう肉をみせるように
はげしい霜をだした
八木重吉

